

<評価基準>

- A = 優れている (優れている状況にある)
- B = 良い (良い状況にある)
- C = おおむね満足 (課題はあるがおおむね満足できる状況にある)
- D = 要改善 (課題が多く速やかな改善が必要な状況にある)

<学校運営協議会推進委員会評価の総評>

【総合評価-B】

1 学校教育目標
 ○今年度から昔からの教育目標を変え、子ども達に分かりやすく自分で考え、行動、解決できる子どもとされた事により、それに合う指導、教育がなされている。結果、児童もそれぞれ自主性や考えて行動する力を身に付けつつある。今後子どもの成長を目指す指導教育がされる事を希望する。
 ○学校教育目標がわかりやすくなり、それにともない目指す子ども也像でも児童にとっても明確に示され取り組みやすくなった。各プロジェクトより具体的な取り組み方法が示され、子ども達も意欲的に取り組めた。
 ○「自分で考えて行動し解決できる子の育成」を学校教育目標に掲げ分かり易い重点目標の基、管理指標を決め実践された成果は大きい。今後もレベルアップして高月小の「めざす子どもの姿」として定着できるよう希望する。

2 学校支援ボランティア
 ○学校運営協議会組織との連携が取り始めており、より強固になるよう期待する。また、子供達が自然で明るい元気な小学校生活が送れる環境作りを望む。
 ○ボランティアの積極的な活動により従来より地域、保護者との連携は図れてきたが、今年度はさらに「学校ボランティア協議会」の組織が作られ、児童の自主的な行事参加もあり、より開かれた学校づくりと交流の場として、地域、保護者、学校が一体となって取り組んでいる活動はすばらしい。

3 図書館活用
 ○図書館司書の配置により、調べ学習など積極的な活用で図書貸出冊数の大幅増加につながった。その結果手際よく調べたりわかりやすくとめられる力がついた事は大いに評価できる。また、学習活動に広がりができた事で今後の取組みに益々期待が持てる。

4 家庭学習
 ○家庭学習の習慣が定着するよう毎日の学習課題や毎週の学習計画とともに「家庭学習のすすめ」を配布し学年数×10分の学習時間を確保するため家庭学習記録により実態把握に努めるなど家庭との連携した取り組みは評価できる。

5 安全
 ○全校集会でパワーポイントを使い校内外の危険場所を見せ「どんな危険が潜んでいるか？」を問いかける危険予知トレーニング(KYT)を実施されたことにより子どもたちの安全意識の向上が図れた。
 ○通学時の登下校と挨拶への取り組みも余り良いとは言えない。改善必要。

6 全般

項	No.	評価設題	自己評価 課題評定	自己 自己	自己評価	学校運営協議会の説明	学校の受け止めかた (学校改善に向けて)	
					評価に対する考え			評価
自ら進んで学習する子	1	よい姿勢で学習している	B	C	学力向上P 昨年に続き全校集会や掲示を通してよい姿勢を示し意識付けを行った。加えて、今年度は朝の読書の時間に「立腰タイム」を設定した。日々実践することを通して、授業中も多くの児童が立腰を意識できるようになってきた。まだ長時間よい姿勢を保持できない児童もいるので、取り組みを継続することで力をつけていきたい。	A	・ 昨年より全体的によくなった。 ・ 良い姿勢の取り組みについてはいろんな場面で継続的に意識し習慣化できつつあることにより全体的に良くなってきている。 ・ 全体での取り組みはもちろんのこと、個人がどのように継続的によい姿勢が保つことができるか一人一人にあった目標を定め取り組み習慣づけられるよう望まれる。 ・ まだ一部生徒の中には良い姿勢に出来ない子もいる。先生の気配りで改善を図りたい。又多少クラスによってもバラツキがありこの点も改善が必要。	立腰タイムは全校で同じ取り組みを進める上でも、また心を落ち着けるためにも大変有効である。今後も継続して進めていきたい。また授業中も姿勢を意識できるように、細かな個別支援を重ねていく。
	2	進んで調べまどめている	B	C	学力向上P 図書館司書に図書館活用について説明してもらったり、調べ学習に活用する図書を探してもらったりすることで、積極的に調べたりまとめる学習に取り組めた。また図書の貸出冊数も大きく伸びた。その結果、手際よく調べたりわかりやすくとめたりする力に伸びが見られた。今後とも総合的な学習の時間や社会科などで調べ学習に取り組む機会を増やしていきたい。	A		今後も各教科で図書館司書を活用し調べ学習に取り組む機会を増やしていく。また自主学習や家庭学習課題でも、主体的に調べ学習が進められるよう、調べてみたいという意欲を高める取り組みを進める。
	3	聞こえる声で発表している	C	C	学力向上P 各学級でスピーチタイムを継続するとともに、全校集会で目標や思いを発表する場を設け、大きな声で話す機会を増やす取り組みを行った。そのためマイクを使わず、全校の前でも聞こえる声で話せる児童が増えてきた。しかし日々の授業の中で、児童全員が学級全体に聞こえるように意識して話しているとは言えず、学年を追うごとに声が小さくなる傾向が強い。話し方の例や声の大きさの尺度を示すことで、相手に届くように話せるよう意識付けを図りたい。	A	・ 全員が大きな声で話せるとは限らない。その子の子の特性を生かして発表できる場がもてるよう配慮も必要。 ・ 間違っても良いので大きな声で読んだり、発表出来る子どもを育成したい。 ・ 屋外で大声発せい会等もしてはどうか(定期的)	スピーチタイムや全校集会といった自分の意見を発表する場づくりをさらに広げるとともに、話すことをまとめるメモを取らせたりといった話すための技能を育てる。また総合的な学習や社会科・理科などでの調べ学習をもとに、自分の考えや思いを自信を持って述べられるよう個別に支援をしていく。
	4	進んで読書している			を学校図書館司書が図書館にいてくれるということで、子ども達も短い休み時間や、調べ学習後にも本を借りることができるようになったことで本に触れる機会が増えた。また、週末に図書室に向いて本を借りる学年も見られたことが大きい。		・ 読書については自己評価も先生の評価も大変よくなってきている。保護者の評価がよい点について保護者会で話し合ってみる必要がある。	これまで同様、新しい本の紹介や、イベントをしていったり、委員会活動で本の紹介コーナーを進めていく。異学年交流での読み聞かせ、読書郵便などの取り組みを入れていき、本に興味を持ってもらう活動を計画していきたい。

自分も相手も大切に する子	5	進んであいさつができてい る	C	2学期の始業式に行った教師 による劇や子どもの作文発表な どによる挨拶への意識付けや、 毎月定期的に行った「おはよう 運動」の取り組みなどを通して、 少しずつ挨拶ができるよう になってきているが、進んで大 きな声で言える子は少ない。	B	・あいさつも高学年になるにつれて、小 さな声になっている。2学期に行われた劇や 作文発表による、あいさつや声の大きさへ の意識付けを毎学期できるとよい。 ・あいさつについては、意識付けの取組み により一定の成果は見られるが、できてい る子とできていない子がある。基本的には 家庭における生活習慣の問題である。 ・一度学校運営協議会・PTA・児童会で話し 合ってみる必要がある。 ・あいさつは大人から押しつけられて、身 につくものではない。「おはよう運動」や 「あいさつ週間」等は一時的に効果はある がすぐに元に戻ってしまう。週間が習慣と なるよう工夫が必要。	来年度も、学校・地域・家庭が一体 となった取り組みを行い、進んで挨 拶ができる子を育てていくことが望 ましい。
	6	時間を守っている	C	5分前放送や時計の設置など により、子どもたち自身が時刻 を見て動けるようになってきて いる。さらに、下校時の集合時 刻を守ろうとする気持ちが継続 してもてるように働きかけてい きたい。	B	・時間を守ることにについては、時計を増設する など自主的に時間を守る環境づくりによって成 果を上げたことは評価できる。	4月初めに、子どもたちに下校の仕 方などについて指導する機会を設 け、安全に気をつけて登下校でき るようにする。下校時、教師が、西 門・信号付近の下校の様子を見届 ける。
	7	はき物がそろえられている	C	教師の日常的な働きかけによ り、子どもたちは脱いだ靴をき ちんとそろえようとする意識を もてるようになってきた。	B	・はき物をそろえる問題についても、継続的な 意識付けが大切であいさつと同様に家庭を巻 き込んでの取り組みが必要。	今後も、その都度子どもたちの様子 を見ながら、履き物がそろえられ るように働きかけていきたい。
ねばり強 くやり抜 く子	8	めあてをもって運動してい る	B	琵琶湖マラソンの各学年にお ける目標を設定したことによ り、昨年度に比べて、休み時間 に自主的にマラソンに取り組ん でいる児童の姿が見られるよう になった。児童の周回数平均も 向上した。 一方で、個人周回数の目標も 設定したが、意識の継続が難し かった。	B	・継続的なステップアップタイムの設定に より一人一人が目標達成のために自主的に 取り組めるようになってきたことは体力作 りの充実大変良い。 ・運動の基本は走ることであり全ての体力 作りの基である。	昨年度に引き続き、各学年における 目標を設定し、琵琶湖マラソンへの 意欲づけを行う。 新体力テストの結果から、敏捷性 や柔軟性において全国平均を大きく 下回る値であったことから、体育の 時間やステップアップの時間を活用 し、体づくり運動を継続して行っ ていくよう教師間で共通理解を図る。
	9	元気に遊んでいる	A	ドッジボールコートを運動場 に設置したことで、休み時間に 低学年の児童が遊んでいる姿が 見られた。 縄跳び大会に向けて、アル コープにジャンプ台を新しく設 置したり、月曜日の昼休みに縄 跳び専用で全校に体育館を開放 したりしたことで、縄跳び練習 に励む児童の姿が多くみられる ようになった。	B	・元気に遊んでいるについての評価は大変良 い。子供は小学生の頃は良く遊び中学～高校 になって勉強に励む様、方向付けるのが良い。 ・環境整備の充実により休み時間や昼休みに 多くの子供達に遊びの場の提供ができたこと により、体を動かす機会が増えたことは体力作 りや運動好きになる子も増えている。	体育館や運動場の使用できる場所を 細かく割り振ることで、各学年が毎 日、サッカーコートやドッジボール コートなど、どこかの場所を使用で けるようにし、遊ぶ場所を確保す る。
	10	掃除をがんばっている。	B	児童の掃除の取り組みの態度 は、概ね改善されてきているよ うに思う。ただ、時折掃いた後 のゴミなどが一カ所にかためて 残されていることがある。最後 まで、やりきることなど掃除に 対する心構えを作り出していく などツメに甘さがある。	B	・掃除の評価は残念だが悪い。掃除の仕方 や取り組み方への指導が必要。学校と家庭の連 携で行うと良い。	各学級で、掃除に対する課題を整理 して、取り組みの目標を定期的に点 検しながら、子ども達の課題を明確 にしていく必要がある。

教育課程・学習指導	11	心に響く道徳学習や学級遊び等、温かいふれあいのあふれる学級・学校の取組が充実するよう進められている	B	各担任の持ち味を生かした学級作りや子どもたちの良さを認め合う「ふわふわの木」の取り組みや道徳の授業などの取り組みが、子どもたちの心に響き、全校的に落ち着いた雰囲気の中で、がんばりを互いに認め合ったり、自分の良さに気づいたりすることができ、温かい人間関係を築く機会になっている。	・道徳の時間が増えることは大いに賛成。人との触れ合いが希薄になっているなか道徳を学ぶことは大事である。また、本や食物に触れる機会が増えることは心身の成長に必要。 ・一部不登校の子どもについて先生が取り組んでおられる。今後も不登校ゼロをめざして取り組んでほしい。 ・基本的な生活習慣の定着に向けた保健指導が進められている。 ・以前の参観日で道徳の時間を見たが学年に応じた道徳教育がなされていて良いもののクラスにより授業態度の良い子供もいた様に思う。評価が悪くなっているのが心配。原因を調査する事が大事。	「わたしたちの道徳」の活用したり、年間計画の見直しをしたりすることで、心に響く道徳教育を行い、子どもたちの心を育てる。道徳コーナーを設置し、日常的に子どもたちの心情に働きかけられるようにする。
	12	読書の取組や歌の日等を通して、豊かな感性・感動を育む取組が進められている	B	図書館司書の配置により、本に親しんだり、図書室を利用したりする子が増えた。また、授業の中での図書の活用が増え、学習活動に広がりがみられる。「今月の歌」の取り組みにより、いろいろな歌に親しんだり、「歌の日」に全校で声を合わせる楽しさを味わった。		さらに、授業の充実を図るために、図書館司書との連絡を密にしていきたい。「今月の歌」や「歌の日」を継続して行い、歌うことの楽しさを味わってほしい。
	13	人権を尊重し相手を思いやる実践的な態度を育成する取組が進められている		学期ごとに人権週間を設定し、全校的な取り組みを行った。学校生活アンケートにより子ども達一人一人の様子を把握し、指導に生かすことができた。2学期は、児童会を中心に「ふわふわの木」を作製したり、ポスターを掲示したりして優しい心や思いやりの心を広げることができた。	・学期毎に人権週間を設けて全校的な取り組みによりアンケートなどで一人一人の様子を把握したり児童会においてやさしい心や思いやりの心を広げる取り組みはとても良いことなので今後も継続してつづけてほしい。	人権週間を中心に学校生活を人権尊重の視点で再点検し、お互いの気持ちを理解できるよう継続したい。今後も児童会の人権に関する活動を検討し、人権意識を高めるような内容にしていきたい。
	14	生徒指導・学校不適応・虐待などについて、関係機関等連携した教育相談活動やケース会議、子どもを語る会等を通して適切な対応や早期発見ができています		生徒指導委員会問題行動の早期発見に向けて頻りに情報交換している。不登校傾向の児童については、SSWを招いてケース会議を開き早期対応を心がけている。	・本校の真の目的にじめ・不登校の根絶といった面もあると思われるので仲間作りや上級生のリーダーシップという点からのアプローチも必要である。 ・日常生活において情報交換は大変重要である。学校ボランティアで入ってもらっている教職員以外の人の目も鋭いと思うので学習終了後担任との交流なりノート記入なりしてもらい情報収集してはどうか。	今後も、会議の場に限らず、日常の細かな時間を利用して児童の様子について情報交換を続けていく。不登校傾向の児童については、今後もSSW等の専門家の意見を聞きながらケース会議を重ね、ケースシートも充実させて今後の指導にいかしていきたい。
	15	掃除活動や学級花壇等の活動を通して美しい学校づくりが進められている	B	環境教育Pより校舎内外が美しくなるように掃除のふりかえりを行い、方法、子どもへの働きかけを検討してきた。今年も地元企業から花苗を提供していただき学級花壇運営に努めてきた。除草活動にも取り組み、きれいな花を咲かせることができた。	・校舎内の清掃は美しくできるようになり、整理整頓もできるようになってきている。校舎外の雑草などについては環境ボランティアの協力を得るなどして、常に除草を適切に行う必要がある。	・掃除にしっかり取り組む児童も増えたが、全校で掃除の指導を徹底していく。 ・校舎外の除草は、計画的にボランティアの協力を依頼して進めていきたい。
	16	「我が校の学力向上策」に基づき基礎的・基本的な内容の習得が図られている	B	学力向上P今年度も漢字の定着を図るようステップアップタイムを利用して漢字プリント・全校統一テスト(3回)を行った。また全国学力学習状況調査の分析に基づき、書く力を高められるよう思いや考えを記述する機会を増やした。加えて今年度は市の学力テストの問題や学力調査の問題に再度取り組み、個々の児童の弱い問題を克服させるように指導を徹底した。今後はさらに取り組みの範囲を過去の問題に広げ、習熟度を向上させていきたい。	「我が校の学力向上策」に基づき基礎的、基本的な内容の習得が図られている。 ・ステップアップタイム時における漢字プリントや学力テストなど再度取り組ませることはくり返して学習の定着にもつながっている。今後も学習意欲が高められるような取り組みも進めていくことが大事である。	書く活動については、まだまだ苦手意識を持つ児童が多い。繰り返し自分の考えを論理的に積み上げて記述する指導を継続する。また授業のまとめを数行で記述させるなどの取り組みを進める。さらに学力テストの分析が生かして個々の児童が苦手な課題を克服できるよう、繰り返し過去の問題に挑戦させていく。基礎基本的事項の習得に向けては、PC室に導入されたドリル学習教材を活用し、全校同一歩調で継続的に学習することで、習熟状況がだれにでも分かるような取り組みを進める。
	17	個別の指導計画にもとづく、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育が推進されている	B	長浜市の巡回相談を通して職員の研修ができた。学校全体として共通実践ができ、教室環境も落ち着いて学習に取り組める環境になってきた。		ユニバーサルデザインの学校・学級経営を目指すとともに、一人にスポットを当てた研修も考えていきたい。
	18	「プロジェクト」などの取組が積極的に進められている	B	学力向上プロジェクト、道徳力向上プロジェクト、体力向上プロジェクトについては、今年度の学校教育目標の重点努力目標実現に向け、各プロジェクト毎に具体的な取り組みが実施できた。環境プロジェクトは、校内研究との関わりが強いので、独自の取組としては少なかった。それぞれのプロジェクトとしての取組が同時期に重ならないよう調整が必要である。	・各プロジェクトではわかりやすい目標設定により目標の実現に向け具体的な取組がされ成果があがってきている。 ・各プロジェクト活動を地道に行ない成果を上げてきた事は大いに評価に値する。活動の上で明らかになった課題を明確にしてPTAや学校運営協議会と協力して課題解決に取り組むたい。	各プロジェクトの取り組みは、児童にとっていずれも大事な内容であるが、一年間の中でどの時期に実施するか見直しを持つことと取り組む内容の焦点化を図っていく。各プロジェクト間の情報交換や日程調整をしながら、職員の共通理解を図り、意欲的に取り組めるよう進める。
	19	基本的な生活習慣の定着に向けた保健指導が進められている	B	熱中症予防やトイレ掃除の仕方について全校集会の場を活用し、全校へ呼び掛けた。各学年の保健の授業で活用できる掲示物を用意したり、授業を行ったりしたことで、保健指導の充実を図った。ハンカチ、はなかみを持ってきている児童が少なかった。		ハンカチ、はなかみを全学年の児童が毎日持ってこられるように、「ハンカチ・はなかみ週間」を設定し、意識を高められるように働きかける。 トイレの使い方及び掃除の仕方について、掲示物などを作成して呼びかけたり、教職員全体で指導したりしていく。

保護者・地域連携	20	家庭との連携を図り、学習習慣の定着と学習規律の確立を図る取組が進められている	B	<p>学力向上P 毎日学習課題を出し自主学習にも取り組ませることで、家庭学習の習慣が定着するように務めている。また毎週学習計画を配布し、学習の見通しが持てるよう、学習状況を知らせ家庭との連携がとれるようにしている。さらに学習の進め方の例として「家庭学習のすすめ」を配布し、学年数+10分の学習時間が保障できるようお願いした。加えて今年度は、児童対象に家庭学習記録を、保護者対象に家庭学習状況調査を行い、実態の把握に努めるとともに、学習状況を振り返る機会を設けた。今後はさらに児童が主体的に家庭学習に取り組めるよう自主学習などを積極的に取り入れ学習課題を工夫していく。</p>	<p>・「家庭学習のすすめ」による学年数×10分と家庭学習記録によって実態把握に努めるとともに今後児童自身の主体的な取組みに生かす工夫がされていることは今後の成果に期待が持てる。</p> <p>・先生の評価と保護者の評価が可成差があり十分な連携が必要である。</p>	<p>今後も毎週の学習計画を継続して配布し、見直しを持って学習に取り組めるよう家庭との連携を確かなものにしていく。また家庭学習状況調査を継続し、それを元に学習時間が確保できるよう、内容がより充実したものになるよう改善していく。</p>	
	21	スクールガードやPTAと連携し、安全な登下校に配慮した取組が進められている	B	B	<p>生徒指導委員会 定期的にPIAと職員で立哨し、また登校時スクールガードに同伴いただくことで、安全に配慮した取り組みがなされているといえる。しかし、下校時は集団でまとまって帰れないこともあり、課題があると考えます。</p>	<p>・登下校時の安全確保については教職員とPTAの定期的立哨やスクールガードなど地域ぐるみの取り組みは高く評価できる。しかし下校時において集団で帰れない日があるため依然として課題は残る。</p> <p>・地域ボランティアや登下校時のスクールガード等もマンネリ化する事の無い様な取り組みが大事。</p> <p>・登下校の安全確保について学校・スクールガード・保護者と連携した取り組みは高く評価できる。しかし子どもたちは列が乱れても注意することがなく下を向いていたり前を見てまわりに気づきができている。高学年は低学年の行動などを見て注意をしたりすることは大切。もっとリーダーを育てていかなければと思う。</p> <p>・スクールガードの見守りもあり登校はまとまっているが下校時のバラツキが気になる。児童にとって下校時の危険性の方が高いので下校時見守りに力を入れてもらえるよう地域と連携し取り組むべきである。</p>	<p>今後とも定期的な立哨指導は継続していく。その際、立哨当番やスクールガードの方から、隊列についての指導をいただく。登下校状態の気になる班においては、集団下校の際に、班長を始めとして班全体に繰り返し指導を行う。また、地域の方々にもご協力いただけるよう広報などを通して啓蒙していく。</p>
	22	学校運営や教育課題等について学校運営協議会に諮問し、地域とともに子どもを育てる教育の具体化に向けた取組が進められている	B		<p>本年度は、学校ボランティア協議会の組織作りができ、メンバーの名簿作りや活動への参加記録等もとれた。学校運営協議会委員独自の学習参観も実施でき、より児童や職員の様子について実態把握ができた。</p> <p>年度当初に学校運営協議会の活動やメンバー等について保護者や地域の方に向けての広報活動が必要である。</p>	<p>・今年度は「学校ボランティア協議会」の組織づくりができ、より地域に密着した活動とともにより開かれた学校を目指し積極的に地域・保護者・学校が一体となって多岐にわたる教育活動に取り組んでいる事は評価できる。また、学校運営協議会の中にコーディネーターがいる事は活動面でやりやすい。</p> <p>・ボランティアメンバーへの「協力の仕方」の教育も実施され児童の主体性の育成が進みよい方向に進んでいる。今後の更なるレベルアップ及び高齢化による世代交代が課題となると思われるので活動のPRが欠かせない。</p>	<p>学校運営協議会の学校教育に果たす役割や活動について、保護者だけでなく地域の方々に知っていただくことで、さらに理解が得られ、ご協力いただけると考えられる。そのため広報活動を実施していく。組織作りができてきたボランティア協議会をどのように運営していくか、年間の見直しを早い段階で計画する。</p>
	23	校報や学年便り、HP等を通して積極的に学校情報を発信し開かれた学校づくりを進めている	C		<p>校報や学年便りは定期的に発行できた。HPについては、市のサーバーへの移行がうまくいかず、新たに作り直すことになった。今後は継続していくための手立て等について検討する必要がある。</p>	<p>・「高月小だより」や「学年だより」は定期的に発行されており地域への情報としては一定の成果はあるがより一層開かれた学校を目指すためにはHPの充実が不可欠である。諸事情もあるが早急に整備して立ち上げる必要がある。</p> <p>・ホームページについては質は高くなくてもクラブ活動の一つに入れ児童参加作成も保護者は楽しみにしている。</p>	<p>校報や学年だより、HPの学校情報を楽しみにしていただいている方も多。できるだけ新しい情報を速く届けることが大事である。特にHPは一部の担当者に任せるのではなく、組織的に取り組むことが必要である。</p>